



草むらに咲くツリガネニンジン

自然観察サークルの9月定例会は、石舞台古墳下の芝生広場に集合して玉藻橋から飛鳥川沿いを通って稲渚迄の野道を散策して植物観察をしました。

棚田を渡る風に吹かれて飛鳥の野道を歩いていると、「秋の野に咲きたる花を指折り数ふれば七種の花 萩の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花 また藤袴 朝顔の花」(万葉集)と山上憶良が詠んだ歌を思い起こしました。今はこの七種のうち「萩の花」「尾花」「葛花」の3種しか見ることはできませんでしたが、それでも秋の訪れを感じさせてくれる野の花が草むらの中に咲いていました。



今月の観察会の担当者が「ヒガンバナ」「ツユクサ」「カヤツリグサ」などを道々説明しながら稲渚へと向かいました。

ヒガンバナ (ヒガンバナ科ヒガンバナ属 多年草 毒草 有毒成分リコリン

別名 曼珠沙華 リコリス・ラジアータ)



ヒガンバナは複数の花の集合体で1花茎に6～7個の花を咲かせます。1つの花は萼と花弁の区別がつかず合計6枚の花被片と呼ばれるものがついています。花被片は外に強くそりかえり、6本の雄しべは中心へ向かって反っています。花の中心に長い雌しべが1本ありますが、日本のヒガンバナは染色体が3倍体なので実はありません。ヒガンバナは鱗茎(球根)で増えていきます。

秋のお彼岸の頃に花を咲かせ、花後に葉が茂ります。翌年の5月ごろに葉が枯れます。

ヒガンバナは田畑の畔によくありますが、それは人が植えたためだそうです。毒のため昆虫や小動物が畦に近寄りにくいこと、根が張るので畦を固めてくれること、飢饉のときに鱗茎の毒を抜き食料にできることなどの理由で畦によく植えられたようです。

### ツユクサ（ツユクサ科ツユクサ属 1年草 別名 月草 着草 帽子花 青花 蛭草）

ツユクサの花は、朝花が開いて昼過ぎにはもうしぼんでしまいます。そんな花なので万葉集にも「月草の借れる命にある人を いかに関りてか 後も逢はむと言ふ」（月草のようにこの世のはかない命の私たちのためにどうしてまた会いましょうなどと言うのでしょうか）などと詠われています。

ツユクサは青い花びらが2枚、白い花びらが1枚あり、雄しべは全部で6本あります。虫が見つけやすいように黄色くよく目立つ X 型は3本、少し離れて Y 型は1本、長く伸びた葯（花粉有）がある雄しべが2本あります。X 型 Y 型は仮雄ずいです。長く伸びた2本の雄しべが完全な雄しべになります。雌しべは中央に1本長くのびます。



ツユクサの自家受粉（花が閉じているところ）

ツユクサの変種オオボウシバナは、ツユクサと同じ青い色素を持っていて、染めてもすぐ色が取れる性質を利用して下絵用の絵具として使われています。

また、ツユクサは若芽の柔らかいうちは食用にでき、おひたしや酢和え油いためてんぷらなどにして食べられるようです。

### カヤツリグサ（カヤツリグサ科カヤツリグサ属 1年草 別名 マスクサ）とその仲間

カヤツリグサ科の植物は種類が大変多くまたよく似たものが多いです。カヤツリグサの茎の

切り口は三角形になっています。名前の由来は、カヤツリグサの茎を切って両端から裂いていくと吊ったカヤのように四角い形に裂けるためです。カヤツリグサの仲間は私たちの足元のとても身近にいる植物です。私は、よく見ている植物だから知っているつもりになっていたなと観察してみて改めて思いました。とにかくよく似たのが多い！！





カヤツリグサ

アゼカヤツリ



テンツキ



ヒメクダ

# 9 月定例会で観察した草花



ハギ



クズ



ススキ(尾花)



アキノタムラソウ



センニンソウ



ヌスビトハギ



アレチヌスビトハギ



イモカタバミ



アラカシドングリ



ネコハギ



コマツナギ



アキノノゲシ



ナンバンギセル石舞台芝生広場植栽

朝夕の空気はひんやりしてきましたが、昼間はやっぱり暑い！そんな中の観察会でした。  
秋の草花がいろいろ咲き始めていて秋の訪れを感じることができました。